

家庭医療専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

プログラムリーダー 浜松医科大学地域家庭医療学講座 特任教授 井上真智子

みなさん、こんにちは。このプログラムは、静岡県の中東遠地域と呼ばれるエリアを拠点としたプログラムです。これらの地域の3市1丁（磐田市、菊川市、森町、御前崎市）からなる静岡家庭医養成協議会が浜松医科大学と連携のもと、運営しています。平成22年度よりスタートし、これまでにレジデントは3期11名、フェロー3名が修了、平成27年度はレジデント6名、フェロー1名が在籍しています。



静岡県中東遠地域は、人口10万人あたり医師数が130人と少なく、行政や地域住民の温かいサポートのもと、家庭医・総合診療医が十分に力を発揮できる環境です。

“ふじのくに”静岡は、世界遺産・富士山を誇るのみならず、中東遠地域で特に盛んな「茶草場農法」は世界農業遺産に認定されており、食材やお茶、自然の豊かさが特徴です。温暖な気候、のどかな土地柄、穏やかな住民気質に支えられ、比較的のんびりとした雰囲気の中、さまざまな人がともに学び、働きやすい職場です。

充実した研修指導体制として、家庭医の指導スタッフによる外来診療のプリセプティンク、振り返り、メンタリングを行っています。木曜午後にはグラウンドラウンドとして、指導医や外部講師によるレクチャー、ワークショップ、多職種学習会を開催しています。ミシガン大学家庭医療学講座との連携により、教育、研究サポートを受けることができます。

このように豊かな環境の静岡で家庭医として活躍したい方、ぜひ気軽に見学にいらしてください！

2 目的

“子宮から天国まで”をモットーにグループで成人・高齢者医療、在宅医療、救急医療、小児医療、妊婦健診・分娩を含めた全科診療を行う地域医療に貢献できる家庭医療専門医になることです。

3 目標

1. 包括的全科診療
家族ぐるみのかかりつけ医（家庭医）として、全科診療（小児・成人・女性・高齢者のケアを含む）ができる。
2. 患者中心性の追求
患者中心の医療の方法論をふまえ、誰もが安心してかけられる満足度の高い診療ができる。
3. 地域のニーズに応える在宅診療
最期まで患者・家族の人生に寄り添う在宅ケア・在宅ホスピスができる。
4. ハイレベルな家庭医療チーム
グループ診療、協同学習、多職種協働により、ハイレベルなチーム医療ができる。
5. ヘルスメンテナンスと Population health
地域住民全体の健康状態の向上のため、すべての年齢に応じたヘルスマネジメントができる。
6. 活発なリサーチ活動
家庭医療学の発展のため、リサーチマインドを持って研さんできる。

4 特徴

家庭医としてのアイデンティティを確立するため、1年次は週一回のHalf-day back、2年次はOne-day backとして、家庭医療クリニック（菊川または森町）で継続診療を行います。

診療終了後は、指導医やレジデント仲間との振り返りを行い、家庭医として必須の知識、スキル、態度を学びます。

1. 家庭医療外来指導の徹底

◆プリセプター室（指導室）を診察室の隣に設置しています。

◆外来患者1人ずつの指導を、フリーのプリセプター（指導医）が行いますので、着実に幅広くレベルの高い診療能力を持つ家庭医が育っています。かかりつけ医の観点から、疾患診断・治療のみでなく、予防接種・健診等を含めたヘルスマネジメントにも配慮するよう指導します。

2. 充実した産婦人科研修

◆妊婦検診、正常分娩の取り扱いができるようになることを目指します。また、家庭医として必要なウィメンズヘルスの知識やスキルを身につけます。

◆浜松医大寄附講座「産婦人科家庭医療学」特任教授が婦人科診療や分娩の指導をします。

3. オリジナル研究プロジェクト

◆3年間を通して、オリジナルな研究プロジェクトを実施します。そのために必要な知識を身につけ、メンタリングを受けながら、研究計画の立案・実施、データ収集、データ分析・まとめ、学会発表、論文発表を経験します。

4. グラウンドラウンド（GR）

◆木曜日の午後にはレクチャーやセミナー、ワークショップを開催しています。レジデント、指導医のみならず、多職種での学習会も行います。また、気づきや学びを深めるため、ポートフォリオの検討や振り返りをレジデント全員で行います。

5. アドバイザー制度

◆一人につき一人の指導医がアドバイザーとなり、定期的にアドバイザー・ミーティングを行って、家庭医としての成長をともに確認していきます。

5 研修カリキュラム

日本プライマリ・ケア連合学会 改訂後期研修プログラムに準拠

1. 総合診療Ⅰ（必修 3年次1年間）

3年次の1年間を通して家庭医療クリニックで外来・在宅診療を行います。家庭医療後期研修の仕上げの年として、外来では子どもから女性、高齢者まであらゆる年代のあらゆる健康問題のケアを行い、さらに、在宅診療、緩和ケアの経験を積みます。地域ケアとして、地域の校医・嘱託医活動や、Population healthの課題に取り組みます。



在宅ホスピスでのレジデント指導

2. 総合診療Ⅱ（必修 1年次3ヶ月、2年次3ヶ月）

菊川市立総合病院または公立森町病院にて、診療科にとらわれず広い範囲の病棟・外来診療、救急医療を経験します。また、1年次は超音波検査、2年次は上部内視鏡検査

の研修を行います。

3. 内科研修（必修 1年次3ヶ月、2年次3ヶ月）

1年次は菊川市立総合病院の総合内科で病棟・外来診療の研修を行い、2年次は磐田市立総合病院にて3つの専門内科を選択し、各1ヶ月のローテーション研修を行います。

4. 救急研修（必修 2年次3ヶ月）

磐田市立総合病院で、救急科専門医の指導のもと多岐に渡る救急医療に携わります。中東遠2次医療圏の救命救急機能の中核を担う病院です。

5. 小児科研修（必修 2年次3ヶ月）

磐田市立総合病院にて一般小児、小児救急、NICUの研修を行います。

小児科ローテーション中の救急外来では、主として小児救急を経験します。

6. 選択① 産婦人科研修（必修 2年次2～3ヶ月）

菊川市立総合病院の産婦人科で、妊婦検診、正常分娩の取り扱いができるようになることを目指します。また、家庭医として必要なウィメンズヘルスの知識やスキルを身につけます。

指導は、浜松医科大学産婦人科家庭医療学講座の教員が行います。

7. 選択① 整形外科研修（必修 2年次1～2ヶ月）

菊川市立総合病院の整形外科にて、基本的な診察手技、プライマリ・ケアでよくある疾患の診断・マネジメントについて学びます。

8. 選択① 緩和ケア研修（選択 2年次1～2ヶ月）

聖隷三方原病院のホスピスまたは坂の上ファミリークリニックにて、緩和ケアの知識、スキル、態度を学び、家庭医として在宅緩和ケアを実践できることを目指します。

9. 選択① 外科研修（選択 2年次1～2ヶ月）

菊川市立総合病院または公立森町病院にて、よくある外科疾患の術前術後管理を経験し、また、外来小外科手技を身につけます。

10. 精神科研修（必修 3年次 週2コマ×3ヶ月）

菊川市立総合病院の精神科にて、週1日の外来・病棟研修を行い、うつ病、パニック障害などよくある精神疾患の診断・マネジメントと、継続的な精神疾患のケアについて学びます。

11. 皮膚科研修（必修 3年次 週2コマ×3ヶ月）

菊川市立総合病院の皮膚科にて、週2コマの外来を行い、よくある皮膚疾患の診断・マネジメントを学びます。

12. 選択②（3年次 週2コマ×6ヶ月）

3年次に、希望する診療科で週2コマの外来研修を行うことができます。診療科は複数選択できます。（泌尿器科、放射線科、眼科、耳鼻咽喉科、リウマチ科、その他）

13. 外部選択研修（3年次 2週間）

希望により、外部施設にて2週間の選択研修が可能です。

6 研修例

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	ローテーション	総合診療Ⅱ			小児科			救急			一般内科		
	クリニック	Half-day back											
2年目	ローテーション	選択①			総合診療Ⅱ			選択①			専門内科		
	クリニック	One-day back											
3年目	クリニック	総合診療Ⅰ											
	専門科外来研修	精神科			皮膚科			選択②					

選択①(計6ヶ月)では、下記の診療科および期間から組み合わせて研修する

産婦人科(必修) 2ヶ月または3ヶ月
 整形外科(必修) 1ヶ月または2ヶ月
 緩和ケア科(選択) 1ヶ月または2ヶ月
 外科(選択) 1ヶ月または2ヶ月

選択②では週2コマを限度に希望の専門科にて外来研修を行う
 泌尿器科、放射線科、眼科、耳鼻いんこう科、リウマチ科ほか

7 研修病院群

磐田市立総合病院

当院は、診療科 33 科、病床数 500 床（一般病床 498 床、感染症病床 2 床）の急性期病院です。診療圏は、約 17 万人であり、地域の中核病院の役割を果たしています。

現在の高度医療水準を充たす最新の診断・治療機器（高精度放射線治療装置や 256sliceCT や 3T MRI 装置など）の導入・更新も積極的に進めています。

平成 21 年度 4 月 1 日に救命救急センター、平成 22 年 3 月 1 日に周産期母子医療センター開設、平成 22 年 4 月 1 日には地域がん診療連携拠点病院、平成 23 年 10 月に地域医療支援病院に指定されており、様々な分野で多くの症例を体験でき、優秀な指導医も揃っています。

菊川市立総合病院

当院は、静岡県南西部に位置し人口約 5 万人を有する菊川市が運営する自治体病院です。当院の病床数は 260 床（一般急性期 162 床、回復期 40 床、精神科 58 床）と中規模で、一般急性期疾患から回復期機能までを持つ地域密着型の病院を目指しています。開業医の先生からの紹介患者、救急患者は当院ですできるだけ初期診療を行い当院では対応困難な症例とわかれば高次機能病院を紹介しています。また、当院や近隣の病院で急性期治療が終了しても自宅退院できない患者は、回復期リハ病棟で在宅復帰のためのリハビリを行っています。

家庭医の研修としては、一般内科研修、総合診療Ⅱ研修を通じて専門科の枠にとられない幅広い外来・入院診療を経験できます。また、産婦人科、整形外科、精神科の領域研修についても、浜松医科大学各医局所属の専門医による充実した指導体制となっており、プライマリ・ケア医として、必要な知識・技能が修得できるようになっております。

公立森町病院

当院は、人口約2万人の農山村が広がる森町が運営する町立病院で、病床数は131床（一般急性期93床、回復期38床）です。かかりつけ医の役割である初期医療から二次医療の急性期まで、及び急性期後に生活の場に帰るための回復期リハビリテーション機能を有しています。また、在宅療養支援病院として24時間365日体制で、隣接する森町家庭医療クリニック及び森町訪問看護ステーションと協働し在宅医療に積極的に取り組み、地域に密着した患者さまの生活、人生、価値観を大切にしたい医療を目指しています。

小さい病院ならではの機動性の良さ、アットホーム感のある病院です。

市立御前崎総合病院

市立御前崎総合病院は、市内中心部と遠州灘を南に臨む海拔38メートルのところに位置し、温暖な気候と海と緑に囲まれた風光明媚な環境にあります。

病棟南側では、水平線からの朝日や夕日が美しく映え、北側では牧之原台地の上に富士山を遠望でき、素晴らしいバックグラウンドを持っています。

当院は、昭和61年に「町立浜岡病院」として開院し、平成13年には病院東側に療養病床、老人保健施設、デイケアなどの機能を有する「浜岡町総合保健福祉センター」がオープンしました。平成16年には浜岡町と御前崎町の合併により御前崎市が誕生し「市立御前崎総合病院」「御前崎市総合保健福祉センター」となり現在に至っています。

急性期医療から回復期、慢性期、終末期や在宅医療、介護までの切れ目のない体制を包括的に有した地域に密着した病院です。

菊川市家庭医療センター

菊川市家庭医療センターは、平成23年8月から家庭医が外来診療及び在宅医療を実践研修する施設として開院しています。十分な広さのある11の診察室、処置室、検査室（血液、一般生理機能、超音波、レントゲン）などを備えています。家庭医療センターのある菊川市の南部は、診療所も非常に少ない地域であり、すべての年代の患者さんがほぼ均等に来院します。そのため、「家族ぐるみのかかりつけ医」として全科診療を学ぶ家庭医の研修施設としては、最適な環境となっています。そして、常に病気を診断治療するのみでなく、予防接種、健診などの予防にも力を入れています。また、常勤・非常勤の医師合わせて11名で寝たきりの方や末期がんの方に在宅医療・在宅ホスピスを提供しており、機能強化型在宅療養支援診療所として、24時間体制での対応も行っています。

特に末期がん患者の在宅ホスピスのニーズは大きく、年間50件近い看取りを行っており、訪問診療導入から緩和ケア、看取りまで一連の流れによる在宅ホスピスの経験ができます。このように、これからの超高齢社会で輝く家庭医になるための研修ができる施設です。

森町家庭医療クリニック

平成23年12月、家庭医療の診療及び家庭医養成施設としてオープンしました。診察室は12室あり全室に家庭医療専用診察台を有し、付き添いで来た家族も同席できるよう設計され、患者さんの話を聞いて、患者さんの心身、家庭環境、家族背景を踏まえた全科診療をはじめ予防接種、乳児健診、健康診断を行っています。さらに、平成24年からは在宅療養支援診療所となり在宅医療も行っています。平成27年度は森町北部の山間地への巡回診療をスタートさせました。

また、教育施設としては、診察室隣にフリーの指導医がいるプリセプター室があり、患者ごとに指導を受けながら診療します。毎日の振り返りもプリセプター室で行っています。その他にレジデント室、カンファレンス室、会議室も完備しています。

8 病院群の症例実績

平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月の症例数

	磐田市立総合病院	菊川市立総合病院	公立森町病院	市立御前崎総合病院	菊川家庭医療センター	森町家庭医療クリニック
入院患者数 (年間・延べ人数)	164,362	72,426	41,783	55,220	—	—
外来患者数 (年間・延べ人数)	287,188	108,896	70,533	60,571	20,661	11,591
うち在宅患者数 (年間・延べ人数)	—	—	491	—	736	391
救急受診者数 (年間・延べ人数)	17,346	4,895	5,443	2,112	—	—

9 研修期間

3 年間 (36 ヶ月)

10 プログラム参加の要件

初期研修を修了し、家庭医を目指す者

11 処 遇

身分：研修する病院の規定に従う

給与、休暇、社会保険等：静岡家庭医養成プログラム後期研修医の給与、勤務時間等に関する要綱による

12 プログラム修了後の進路

- (1) 当プログラムフェローコース
- (2) 菊川家庭医療センターまたは森町家庭医療クリニックへの就職
- (3) 病院群の病院への就職

13 プログラム運営委員会 (◎プログラムリーダー)

◎浜松医科大学地域家庭医療学講座

特任教授 井上真智子 (1997年 京都大学医学部卒)

浜松医科大学産婦人科家庭医療学講座

特任助教 鳴本敬一郎 (2004年 筑波大学医学専門学群卒)

森町家庭医療クリニック 所長 堀江典克 (1997年 秋田大学医学部卒)

菊川家庭医療センター 指導医 綱分信二 (2008年 山口大学医学部卒)

同 指導医 津田修治 (2006年 筑波大学医学専門学群卒)

磐田市立総合病院

副院長兼研修担当部長 寺田雅彦 (1983年 滋賀医科大学卒)

菊川市立総合病院	院長	村田英之 (1980年 浜松医科大学医学部卒)
同	副院長	二見 肇 (1987年 浜松医科大学医学部卒)
公立森町病院	院長	中村昌樹 (1985年 浜松医科大学医学部卒)
市立御前崎総合病院	院長	大橋弘幸 (1981年 浜松医科大学医学部卒)

磐田市立総合病院 副院長兼教育担当部長 寺田雅彦

磐田市立総合病院で内科を担当しています。これから日本が迎える超高齢化社会の医療を支える医師として家庭医が注目されています。当プログラムも設立後6年目を迎え既に12名が3年間のプログラムを修了・家庭医療専門医のボードを取得し家庭医として全国の様々な地域で活躍しています。また現在も6名の専攻医が森町と菊川の家庭医療センターと磐田、菊川、森町3つの公立病院で日々研修を行っています。

磐田市立総合病院では主に小児科、産婦人科、内科専門科のローテーションを行っていますが、既に多くの家庭医たちの研修を受け入れている実績があるため、専門医たちの家庭医療に対する理解がすすみ、家庭医が総合病院で安心して学べる環境が整ってきています。

私も当プログラムの専攻医が当院で実り多い研修を行えるように全力でサポートします。皆さん是非とも家庭医としてのキャリアを当プログラムでスタートしてください。

菊川市立総合病院 院長 村田英之

医療資源の乏しい地方において家庭医の存在は不可欠と考え、平成22年度より磐田市立総合病院、公立森町病院と連携して家庭医養成プログラムを始めました。当院の中期計画には、「当院は家庭医の研修体制を支援する」と明記されており、当院の臓器別専門医は、高い意識をもって研修の指導にあたっています。当院では診療科間の垣根が低く、研修中に感じた疑問や本には書かれていない診療のこつなども気軽に相談できる雰囲気ができています。

私が属する整形外科では6名の整形外科医(うち5名が専門医)が診療に携わっています。外来研修では初診患者の中から関節痛、腰痛、脆弱性骨折など日常遭遇することの多い疾患を3症例ピックアップして、まず問診、診察、画像検査(主にXP)を一通り行なってもらった後で、整形外科医がマンツーマンで評価、指導します。また、週1回スポーツ外来を開いており、スポーツに関係する外傷や疾患を多数診ることができます。希望者には腱鞘炎、手根管症候群、大腿骨頸部骨折などの手術に入ってもらっています。

家庭医療センターと総合病院である当院が連携することで、医療資源を有効に使い、地域に根ざした病院となるよう努めています。

菊川市立総合病院 副院長兼教育担当 二見 肇

「当院では、このプログラムの内科、家庭医療科ローテーション中に、指導医、専門医の協力を得ながら、入院患者を主治医として担当し、hospitalistの視点から研修を行っています。家庭医の診療は外来に重点が置かれることが多いと思います。入院主治医を経験し、救急外来研修も含めて、救急性のあるsettingで診療に当たることで、多様な症例に対応し、それを診療する医師をはじめとするスタッフと接することで、幅広い視野に立った、厚みのある診療が可能となり、診療能力が格段に上がります。

当院は、私をはじめ、日本内科学会総合内科専門医などの専門医も多く(内科学会の研修施設でもあります)、気軽に相談することが可能です。現在は、超音波検査、上部内視鏡など手技の指導はプログラムに組み込まれていますが、その他の不足していると思われる知識、症例経験、技能などがあれば、そのレベルが向上できるよう支援することができます。」

公立森町病院 院長 中村昌樹

当院は、森町が単独で運営している病床数 131 床の公立病院です。森町の高齢化率は 30.2 で、10 年先の日本を先取りしています。そんな森町で、人々の生活を支える医療をめざし、在宅医療の充実、退院支援の強化、介護施設や医療機関との連携強化、リハビリテーションの充実、在宅医療連携拠点事業などに取り組んでいます。

平成 23 年 12 月、病院に隣接地に森町家庭医療クリニックを開設し、家庭医の育成にも取

り組んでまいりました。また、住民ボランティアとの協働に重点を置いたことで、地域住民の家庭医への理解も進み、今や森町にとって家庭医はなくてはならない存在となっています。今後、さらに森町の地域包括ケアシステムにおける家庭医の存在は、重要となってくることでしょう。

日本の未来を先取りした森町で、ともに地域医療を作り上げていく、やる気のある仲間を求めています。

市立御前崎総合病院 院長 大橋弘幸

静岡市（旧：清水市）出身です。

現在の研修とは異なりますが、私も卒業 2 年目に浜松労災病院、3・4 年目に共立菊川病院（現菊川市立総合病院）で、主に内科研修をさせていただきました。また、救急を経験させていただいた事が、今でも臨床の一線に立つことができる糧となっております。私は、市立御前崎総合病院の病院長ですが、実際に外来や病棟の患者さんの主治医となり、毎日楽しく働いております。

リウマチ性疾患は全身の臓器障害を引き起こすことや、その合併症が様々であることから他科との連携が必要になります。その点、当院では他科との垣根が低いので気軽に相談することができます。

浜松医科大学産婦人科家庭医療学講座 特任助教 鳴本敬一郎

菊川市立総合病院産婦人科

妊娠・出産は女性とその家族にとって大きなライフ・イベントです。妊娠中によく遭遇する生理的、身体的、心理的変化や様々な症状・症候を理解し、適切に対応できることは家庭医にとって非常に重要です。また、妊娠、分娩、産褥を通して母親・父親の健康やその子供の成長発達を継続的に診ていくことは、家族志向を基にした健康問題へのアプローチや予防医療において大きな意義があります。

当プログラムでは、浜松医科大学産婦人科家庭医療学講座との協働により地域総合病院産婦人科および家庭医療外来研修施設（菊川・森町）にて、家庭医療の一部である女性医学を継続的に研修できます。産婦人科専門医から見たピットフォールと家庭医療からみた生物心理社会的および包括的なアプローチをブレンドさせ、詳細な病歴聴取、膣鏡診と内診、妊娠・分娩・新生児管理を通して、女性医学におけるプライマリ・ケア領域の知識・技術を修得します。また、国内外の最新のエビデンスの検討会、女性医学に関する書籍の執筆、学会発表、女性医学関連のリサーチなど、アカデミアも希望に応じて経験できる刺激ある研修環境です。

森町家庭医療クリニック 所長 堀江典克

夏にはとうもろこしが、秋には次郎柿が、そして冬にはレタスがとてもおいしい森町にあるティーチングクリニックです。ジブリのアニメに出てきそうな風光明媚な人口1万9千人のコミュニティで、家庭医療の研修はいかがでしょうか。診療科目は、内科・心療内科・外科・整形外科・婦人科・皮膚科・精神科とほぼフルスコープで診療しています。医療機関の少ない町であり、地域の方々のプライマリ・ケアのニーズも高まり、在宅も含めた患者数が年々増加しており、全科診療、予防医療、全人的医療を行う「家庭医療らしい」クリニックと言えらると思います。建物も平成23年度に建てられたばかりで、しかもアメリカの診療所をモデルにした、他の日本の診療所にはみられない構造や設備になっており、興味のある方は是非一度訪ねてみてください。

菊川家庭医療センター 指導医 津田修治

長野県の佐久総合病院で初期研修、筑波大学附属病院総合医コースで後期研修の後、当プログラムに参加しています。「責任をもって地域の医療を支える家庭医」と「家庭医の面白さを体現し、魅力や実力を発信すること」を両立したいと考えています。高齢者の生き生き、よい最期について特に興味を持って勉強しています。

家庭医の実力は、外来で全科的な診療を提供し、それが患者さんにとって本質的な支援になること、だと考えます。自身の経験から、ある程度できるようになったと思えるには予想以上に時間と環境が必要だと思えます。また、個人の力や時間には限界があり、自分自身が納得できる医療の提供には、グループ診療、チーム医療、多職種連携が必要です。これは外来診療でも訪問診療でも当てはまることです。赤ちゃんからお年寄りまで、外来や在宅で、痒いところに手が届く、きめ細かな診療や支援ができるように、診療と教育の体制を整えています。

菊川家庭医療センター 指導医 網分信二

最大の魅力は“ぶっちぎりの全科診療”をキャッチフレーズに家庭医・総合医として世界標準のプライマリ・ケアを提供することができるようになることです。そのために必要な研修のハードとソフトのリソースがここにはあります。

必要なのは、あなたが「家庭医・総合医になる」という決心だけです。年齢や性別に関係なくどんな訴えの患者に対しても誠心誠意に問題と向き合い、最高のチームを作って問題解決を図る。治すことに留まらず、エビデンスに基づいた予防医療を駆使してプロアクティブに健康増進を図る。さらには地域住民がもっと健康になれるよう、地域診断を行い地域の強みを強化し弱みを減らす取り組みを行政や住民と協同して行うことができる。これが家庭医・総合医のスペシャリティーです。

あなたが決心し、覚悟するなら私を含めた指導医、静岡家庭医養成プログラムはあなたを全力で応援し、教育し、支え続けます。

どこの地域も未来のあなたを待っています。